

令和7年11月26日
(2025年)

保護者のみなさまへ

吹田市立吹田東小学校
校長 村上 弘明

令和7年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として「令和7年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月上旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語と算数、理科に限られております。また、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった6年生には、よりきめ細かな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導方法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。

1 教科に関する調査の分析

●国語《概要》

- ・読むことに関しては、全国値を下回り、大きな差がみられた。
- ・資料をもとにまとめるという問題において、課題がみられる。
- ・話すこと・聞くことに関しては、発言の意図をくみ取ることができている。

●国語《各領域における成果と課題》

言葉の特徴や使い方に関する事項

- ・正しい漢字を書く問いでは、全国値をやや上回った。

情報の扱い方に関する事項

- ・図からの情報を正しく理解することに課題がみられる。

話すこと・聞くこと

- ・すべての問題において全国値をやや下回るが、発言の意図をくみ取る問題では全国平均をやや上回った。

書くこと

- ・すべての問題において全国値を下回った。特に2つの資料を基に、それぞれの文言を使用してまとめる問題では、大事な言葉や文を自分で探し出して文章にまとめることに課題がみられる。

読むこと

- ・すべての問題において全国値を下回るが、文章の工夫を見つける問題では、全国値を上回っている。
- ・複数の資料を見て答えを見つけ出す問題では、適切な言葉を見つけて書き抜くことに課題がみ

られる。

●国語科における成果と今後の指導改善のポイントについて

- ・国語科にとどまらず、情報を相手にわかりやすく伝えるために、図表やグラフを用いて効果的に書く機会を増やすことや、意図や目的に応じて適切な記述の仕方を考えることを、積極的に取り入れていく。
- ・どの問題も最後まで粘り強く取り組むことができていたが、読解力に課題があるため、問題文や資料を最後まで読むことを意識するよう声かけをしていく。読むことは、他教科にもつながることであり、読書力の向上を図っていきたい。

●算数《概要》

- ・全体的に無解答率が高く、平均正答率は全国平均を上回っているものはない。
- ・選択式の問題では、無解答は少なく、何とか書こうという姿勢がみられる。
- ・問題文が長くなればなるほど、正しく読み取れていない傾向がある。

●算数《各領域における成果と課題》

数と計算

- ・全体的に全国平均を下回っている。特に工夫して計算する問題に苦手意識を感じる。
- ・ $3/4 + 2/3$ や、 $1/2 + 1/3$ 等の計算では通分につまずきがみられ、無回答率も全国平均に比べて高かった。
- ・単位分数を問われている問題について、極端に正答率が低く、無解答率が高かった。

図形

- ・全体的に、全国平均を下回っている。
- ・五角形の面積を求める問題では、正答率が全国平均を上回っている。だが、無解答率も全国平均を大幅に上回っている。

測定

- ・はかりの目盛りを読む問題では、正答率は半分であった。

変化と関係

- ・全ての問題で正答率が全国平均を下回っている。無解答率も非常に高かった。
- ・選択式の問題も、無解答率が高かった

データの活用

- ・全体的に全国平均を下回っている。表やグラフからデータを読み取って分かることを記述したり、データを活用して設問に答えたりすることについて、求められていることが何なのかがつかめていない等、課題がみられた。

●算数科における成果と今後の指導改善のポイントについて

- ・選択式の問題は無解答率が低く、何かを書こうとする姿勢は見られるものの、自分の考えを書く記述問題は極端に苦手な傾向が見られる。日頃から自分の考えを文章や図等を用い、わかりやすく説明する時間を確保し、記述して表す力や意欲を高めていく。
- ・単純な計算問題も無解答率が多いので、基礎的な計算問題から地道に取り組んでいく。
- ・説明する力をつけるために、自分の考えを友だちに説明する、友だちの考えを理解する学習に日頃の授業から取り組んでいく。
- ・後半の問題になるにつれ、選択式の問題も無解答率が上がっている。問題を読み取る力も必要だが、最後まで粘り強く課題に取り組む力を日々つけていきたい。

●理科《概要》

- ・平均正答率は、全体的に全国値を下回っている。
- ・問題形式が記述式の場合は、無解答が増え、全国値を下回っている。

- ・水の蒸発や水のしみ込み方に関しての基礎知識は身につけている。

●理科《各領域における成果と課題》

『エネルギー』を柱とする領域

- ・電気を通す物や磁石に引き付けられる物を選択する問題は、全国値を下回っている。
- ・電磁石の問題は、無解答率が高い。

『粒子』を柱とする領域

- ・水の蒸発が、温度と関係している問題は、全国値をやや上回っている。
- ・水の結露の問題は、全国値をやや下回っている。
- ・問題を解決するための観察、実験の方法が適切であったかを表現する問題は、正答率が低い。

『生命』を柱とする領域

- ・顕微鏡の操作技能が身につけているかをみる問題は、全国値を上回っている。
- ・発芽の必要条件について、実験の条件制御に関して表現する問題は、正答率が低い。

『地球』を柱とする領域

- ・土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いを選択する問題は、全国値とほぼ同じである。
- ・結果をもとに結論を導いた理由を表現する問題は、正答率が低い。

●理科における成果と今後の指導改善のポイントについて

- ・問題に対して、複数の観点から物事を考えることに難しさを感じる。今後は、1つの事象に関して、主体的に物事に興味を持ち、問題解決する姿勢を養う必要がある。
- ・後半になるにつれて、無答率が全国・大阪府の平均を上回っている傾向がある。問題を順番に取り組むのではなく、まずは問題を通して見て、できそうな問題から取り組んでいく習慣をつけていくことが大切である。

2 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向

【学習環境・生活環境について】

肯定的回答が全国値を上回った項目

地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツ、体験活動に関わってもらったり、一緒に遊んでももらったりすることがありますか
PC・タブレットなどの ICT 機器で文章を作成する（文字、コメントを書くなど）ことができると思いますか
PC・タブレットなどの ICT 機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができると思いますか
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか
道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか
国語の授業で、目的に応じて、簡単に書いたりくわしく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書いていますか
算数の勉強は好きですか
算数の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていますか

肯定的回答が全国値を下回った項目

人が困っているときは、進んで助けていますか
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか
困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか
人の役に立つ人間になりたいと思いますか
自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか

地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか
普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか
読書は好きですか

- * 「自分には、よいところがあると思いますか」「先生は、あなたのよいところを認めてくれていてと思いますか」について「当てはまる」の割合が全国値を上回る
- * 「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」について、約3割が「2時間以上」で全国値を上回る。「全くしない」が2割。
- * 「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」について、「1時間以内」「全くしない」が最も多く7割を超える。
- * 「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか」について、「30分以上」は全国値と同じ。「10分以下」「全くしない」が5割以上。
- * 「5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」について、「ほぼ毎日」が全国値を大きく上回る。

3 今後の取り組み

- ◇全国的に「主体的・対話的で深い学び」に取り組んだと考える児童生徒ほど、各教科の正答率や挑戦心・自己有用感・幸福感が高く、自分で学び方を考え工夫している、という傾向があります。本校でも、「主体的・対話的で深い学び」を具現化するために、各教科の授業では、その単元で身につけるべき資質・能力や「なぜ学ぶのか」「何を学ぶのか」「どのように学ぶのか」の3つの視点を明確にした授業研究に取り組んでいます。引き続き研究を推進し、学ぶ意欲を高める授業づくりを進めていきます。
- ◇これまで本校で取り組んできた「東っコストァディ」「チャレンジタイム」「読書タイム」を継続するとともに、学習形態の工夫や、個に応じた指導の充実を図り、その効果を高め、基礎的な学力向上に努めていきます。
- ◇「自己肯定感（自尊感情）」は何かをやろうという意欲の源であり、周りの人を受け入れて良好な人間関係を築くために必要なものです。「みんなすて木」など、自己肯定感を高める取組や子ども主体の取組を引き続き進めていきます。
- ◇ICT機器の活用には、多くの児童が「分からないことがあったらすぐに調べられる」「画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよくわかる」「友だちと考えを共有したり比べたりしやすくする」などの効果を実感しています。書くことに苦手意識がある児童も、タブレットで学習の振り返りを作成することや、漢字・計算の練習アプリに意欲的に取り組む姿が見受けられます。引き続き、ICT機器を活用した授業づくりを進め、児童がICTのよさを活かして効果的に活用できる環境を整えるよう努めていきます。

ご家庭では

- ◇学校での学習の定着に向け、規則正しい生活習慣、宿題、家庭での計画的な学習や読書習慣の定着など、児童の自立と幅広い学習の機会をつくる指導を進めるために、引き続き各家庭での働きかけやご協力をお願いいたします。
- ◇吹田市では、デジタル・シティズンシップ教育に取り組んでおり、児童が自分自身の生活を見つめ直し、インターネット、テレビ、ゲーム、本、新聞、雑誌などのメディアを自分にとってバランスよく利用することについて考える機会を設けています。家庭でも、携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、話す機会を持ち、児童自身が主体的に考え、行動できるように、ご支援をお願いいたします。
- ◇保護者の皆さまにおかれましては、家庭と学校が連携し、子どもの自立と学びの機会をつくるために、ご支援ご協力をお願いいたします。